

成果指標				
成果指標	一日平均利用者数を100人以上とする。			
指標設定の考え方	利用実績を踏まえつつも、増え続ける高齢者人口に比例する利用増加をめざす。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目 標	118	105	0	0
実 績	103	96.3	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	伊予市社会福祉協議会が指定管理者となり実施している。平成27年度に他所へ建替が予定されており、また同所に建設される文化ホール、図書館、公民館の一部を高齢者向けに利用できるスペースを確保する予定であり、高齢者の増加に対応しつつ、幅広い利用ニーズに対応したい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	本市の高齢者福祉施設の中核である。近く建て替えが検討されているが、設備やサービス内容等充実した施設になることを検討しなければならない。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	新施設が建設されることから、スムーズな業務移転ができるよう計画すること。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。